

## 令和6年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和佐幼稚園

教育目標

豊かな心を持ち、明るく元気な和佐っ子を育てる。

| ゆめ             | 重点目標           | 具体的取組          |                                                       | 取組の状況                                                                                                                                                       |
|----------------|----------------|----------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開かれた幼稚園教育をめざして | 幼稚園教育で育まれる力とは・ | 豊かな経験を通して      | 四季を感じられるような環境を工夫する。また、植物を育てたりする中で、成長や収穫を楽しめるようにする。    | 野菜栽培や生き物の飼育など、四季を感じる取り組みを進めてきた。栽培や飼育に関する知識を教師自身が深めておくことで、子供の興味に寄り添って活動を深めることになるのではないかなと思う。また、小学校交流の中でも、ジャガイモ植えや収穫などを一緒にやり、調理して食べることで、より栽培に興味をもって取り組むことができた。 |
|                |                |                | 豊かな経験ができるように、たっぷりと遊べる時間を確保する。                         | 今年度も、登園後から11時頃まで好きな場所で、好きな遊びを楽しめることができるように取り組んできた。たっぷりと遊べる時間が、自分の興味のある活動を深めることに繋がっていると感じる。                                                                  |
|                |                |                | 子供たちの興味や関心の幅が広がり、遊びが深められるような幼稚園環境の整備に心がける。            | 子供の遊びの動線を考え、環境構成を考えてきた。今後も子供たちの遊びの様子をしっかり見取り、子供たちがより意欲的に遊べるように、引き続きよりよい環境構成に努めていく必要がある。                                                                     |
|                |                | 身近な人との触れ合いを通して | 遊びや日々の生活を通して、他の学年の友達にも親しみをもち、一緒に遊びたい気持ちをもてるようにする。     | 好きな遊びを十分することで、他の学年の友達とも一緒に遊ぶ姿が見られた。鬼ごっこ等のルールのある遊びの中では、5歳児を中心に関わりを持ちながら、遊べるように援助している。今後も異年齢交流が自然な形で関わりができるように、サポートしていきたいと思う。                                 |
|                |                |                | 一人一人の子供の実態に応じた細やかな支援をするため、職員間で子供理解に努め、共通理解を図る。        | 実際の具体的な姿から、子供の理解を深め、め、援助や環境構成に役立ててきた。今後は、より専門的な知識が必要な場面もあると考えられるので、研修を積み重ねていきたい。                                                                            |
|                |                |                | 隣接する小学校との交流を通して、小学校へ期待をもったり、幼稚園以外の人々にかかわったりする楽しさを味わう。 | 11月に幼小連携の研究を進める中で、子供同士が互いに親しみをもち、スムーズな就学への流れができていくと思う。今後も、幼小連携活動を継続させていく必要性を感じ、進めていきたい。                                                                     |
|                |                | 子育て支援を通して      | 毎日の送迎に、園での子供の様子伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、共に成長を見守っていく。      | 細かな情報のやり取りから、保護者と子供の育ちを共有し、ともに成長を支える関係性をつくることを大切にしている。その中で、保護者に伝える内容の精選と発信の工夫が今後必要である。                                                                      |
|                |                |                | 保護者に幼稚園教育をわかりやすく伝えるために、クラスだよりや参観の内容を工夫する。             | クラスだよりや参観等で、子供の活動を細かに保護者に伝えるとき、クラス独自でアンケート等で聞きながら、伝わる精度を上げるように工夫する。                                                                                         |
|                |                |                | クラスだよりや園だより・ホームページ等を活用し、子供の様子を伝えながら、幼稚園教育を発信する。       | 情報発信の相手を想定しながら、必要な情報がなんであるかを把握し、意義ある内容を取捨選択し、今後も努めていく。                                                                                                      |

## 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

- ・アンケート集計は、概ね肯定的に捉えられているが、幼稚園教育の伝わりにくさに着目しながら、よりわかりやすい発信を続けていく必要がある。
- ・『子供が楽しそうに幼稚園に通っている』の項目が、全部肯定的に捉えてくれていたのがよかった。
- ・子供自身のことに関しては、否定的な考えをもっている保護者もいる。子供自身がもっている力を、しっかりと伝えていく工夫も必要である。

## 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

- ・アンケート結果から、保育活動の内容は決して低くなく、保護者にもしっかり伝わっている部分があるが、今後の園児の減少を食い止めるためには、もっと保育内容のわかりやすく発信することと保育サービスについて検討していく必要があると実感している。

## 学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・小さい時から遊ぶことをしっかりしていれば、将来、人をまとめる力に育つ。先生がリーダーシップをとって、人とのコミュニケーションをとる力をしっかり育ててほしい。その力がいずれ人の面倒を見る力に育ち、人に感謝できる子供の育成につながっていく。
- ・最近、気温が低く寒くなっているので、子供たちが外で目に当たることが少なくなり、免疫力が低下しているとも言われているので、しっかり外遊びをさせてあげてほしい。